



あおやま ひでたけ 青山 議員

補助金交付適正化の法を鑑み考えを

民法の「私的自治」の原則から町の手が離れた私的なお金

多くの町民が、なぜ？

「出発しない？」

青山 三区補助金問題で多くの町民から告発しない意見を聞いている、補助金は自治会の裁量で自由に使える私的なお金で被害者は三区自治会との町長答弁であるが、私どもには真逆の意見が多く寄せられている。補助金交付適正化の法を鑑み町長職責の立場から明確にお示し頂きたい。

町長 三区自治会に補助金が交付された段階で、補助金は町の公金ではなく、補助事業のルールに

則り、三区自治会の裁量で自由に使える私的なお金となります。民法の「私的自治」の原則によれば、「私人間の経済活動などは、公的機関は介入すべきではない」とされ、これは、私人個々の自由な意志決定が出来ることを意味するものであります。このことから、三区自治会への補助金は、町の手が離れた私的なお金という考え方になります。今後、三区自治会の総会における住民の意志を見極めながら判断して行きます。

住民の内発的な発展の醸成が課題！

青山 大正ロマンの館に關してのアンケート結果は、200件配布し78件回収中肯定的な意見は3通のみ。指定管理の条例化を先にして、何をするかを後で決めることには70件が問題ありと指摘。町民の熱意や創造力など、住民による内発的な発展の醸成に欠ける点が露呈した。町長の考えを。

町長 当該建物は、大震災により大きな被害を受けた中心市街地の復興のシンボルとして、また、賑わい創出の場として活用することで、ワークショップや矢吹町復興ま



大正ロマンの館

ちづくり協議会において協議を進めてまいりました。また、昨年春に土地を購入し、建物についても、所有者様よりご寄付をいただき取得したところであります。改修予定は、平成28年10月。同年11月には指定管理者による、同施設の運営開始を予定しております。

平成35年度財政指数
良化の根拠は？

青山 平成35年の財政指数の目標値として経常収支比率80%、実質公債費比率13%がしめされた。増加する公共施設の更新費用、総合運動公園をどうするのか、中畑小学校、善郷小学校の老朽化、道の駅や複合施設などが目白押しに新たに計画される中、これら指数の根拠を尋ねる。

町長 経常収支比率については、ピーク時の平成19年度と比較すると平成26年度には7.6%減少しています。実質公債費比率については、ピーク時の

平成18年と比較すると平成26年度には10.5%減少し、一歩一歩着実に健全性が増しております。今回、第6次まちづくり総合計画では、財政規律を高めるための目標値を定め、計画最終年度の平成35年度における目標値を定めたところであります。引き続き「事業」と「財政」に注視してまいります。